

しれとこ 100 平方メートル 運動ハウス展示制作記

文・川村喜一（普及企画係）

運動ハウスは
築 36 年の建物。
展示をリニューアル
して大切にしよう！

展示物は
ほぼ手づくり！

普及企画係
とだ

自然復元事業係
なかにし（木工作家）

森づくりの展示記念館

2022 年から今年の冬にかけて、私たち知床財団は、知床自然センターに隣接する施設「しれとこ100平方メートル運動ハウス」の展示改修をおこないました。

「しれとこ100平方メートル運動」とは、かつて乱開発の危機にあった知床国立公園内の開拓跡地を保全し、原生の森を復元する斜里町の取り組みです。全国の寄付者によって支えられるこの運動は1977年に始まり、数百年先の未来に向けて今も続いています。この壮大な森づくりの現場を担うのが、私たち知床財団です。

今回の特集では、展示づくりを通して100平方メートル運動の軌跡と未来を伝える私たちの取り組みについてレポートします。

※斜里町「しれとこ100平方メートル運動ハウス展示リニューアル業務」

手づくりの額縁

展示に使用した木製の額縁は、製材から加工まですべて手づくりです。木工作家でもあるスタッフ中西の工房で夜遅くまで作業をおこないました。

田中豊美さんの絵画には
ミズナラ製の大きな額を！

たくさんの行程を経て
完成に近づいていきます。



▲「未来」の森



▲「現在」の森



感じて学ぶ。手づくりの森づくり。

「現在」と「未来」
を描く絵画

来館者をはじめに出迎えるのは、野生動物画家・田中豊美さんによる運動地の森をテーマにした2つの絵画。「現在」の運動地の自然を描いた作品と、数百年先の「未来」を描いた作品です。

「未来」の森を描いた絵画では、成長した木々が鬱蒼と生い茂り、より濃密な野生動物たちの気配が感じられます。

2つの作品に描かれた
森の成長を見比べると
より感慨深いですね！

未来の森を描いた作品は、
今回新たに田中豊美さんに
制作いただいた
大作です。

葉っぱの標本

100平方メートル運動では、針葉樹と広葉樹が混ざり合う多様性豊かな森の再生を目指しています。

知床の森をより身近に感じてもらうため、運動地に生息する様々な樹種の葉っぱを採集し、標本を作りました。木製の額縁は、それぞれの葉っぱと同じ樹種で作られています。

葉っぱと同じ
樹種で作った
木製の額縁！

知床財団のスタッフは普段どんな仕事をしているの？
あまり知られていない日々の取り組みをご紹介します。



ゴマフアザラシの赤ちゃんを保護しました

4月のある日、「漁港に弱ったアザラシがいるんです…」との通報を受け現場へ向かうと、そこには衰弱したアザラシの赤ちゃんの姿が。こうした傷病野生動物への保護収容対応も私たちの大切な仕事の一つです。収容当初は危ない状況でしたが、スタッフの懸命なケアにより何とか一命を取り留め、今ではすっかり元気になりました。

野生動物を保護した場合、基本的には野生復帰を目指すことが前提となります。しかし、今回は治療に時間がかかってしまったことなどから、当財団と連携協定を結んでいる旭山動物園が飼育展示動物として引き受けてくださることになりました。今後は動物園でアザラシを取り巻く現状や知床の自然について伝える役割を担ってくれることと思います。元気でね！



「JTB 札幌 しっとこ知床」に参加しました

5月13日と14日の2日間、イオンモール札幌平岡店で、株式会社 JTB 様主催の知床誘客イベント「しっとこ知床」に参加してきました。当日は、ヒグマの本物の毛皮や頭骨を用いたり、紙芝居の読み聞かせを行ったりして、ヒグマの生態や私たちの活動について紹介させて頂きました。始めは毛皮におっかなびっくりだったお子さんでしたが、説明を聞いているうちに興味をもってくれました。今回のイベントを通して、ヒグマがどういう動物なのかを知り、知床が自然あふれる魅力的な場所であることを知ってもらえたなら、嬉しい限りです。

当日の会場の様子は知床自然センターのTwitterでも少しだけ見ることができます！



伝える、繋がる。過去と未来を結ぶ現在地点。

森づくりの歩みを辿る
しれとこ100平方メートル運動の歩みを紹介する展示もリニューアルしました。
運動の歴史や現在の取り組みをわかりやすくリズミカルに伝えられるよう、文章づくりも熟考しました。



現在の取り組みを紹介するポスター



運動の歴史を辿る年表



交流空間をつくる
環境学習や研修で訪れる方々に向けて、直接森づくりの解説ができるレクチャーコーナーも新設しました。
開放的な窓辺には、間伐材で作ったテーブルを設置し、読書や休憩でも楽しめるような空間づくりをおこないました。

新たな支援者の名を未来に残す
運動ハウスの中央には100㎡（10×10m）のシンボリックな空間があり、運動に参加した寄付者の氏名が掲示されています。この建物は「運動参加者の名前を永久に残す」ための展示施設でもあります。
乱開発から土地を「守る」ことに成功した100平方メートル運動は、1997年から森を「育てる」第二ステージに進展しています。今回のリニューアルでは、この第二ステージの運動に参加した寄付者の氏名を掲示するモニメントも制作しました。
モニメントは運動地に木々が育っていく光景をイメージしてデザインされ、参加者のネームプレートは森づくりの過程で生じたアカエゾマツの間伐材を再利用しています。

